

2010年3月期 決算説明会

Shine[★] 2011

2010年4月30日
双日株式会社

■ 2010年3月期決算実績

□ P/Lサマリー

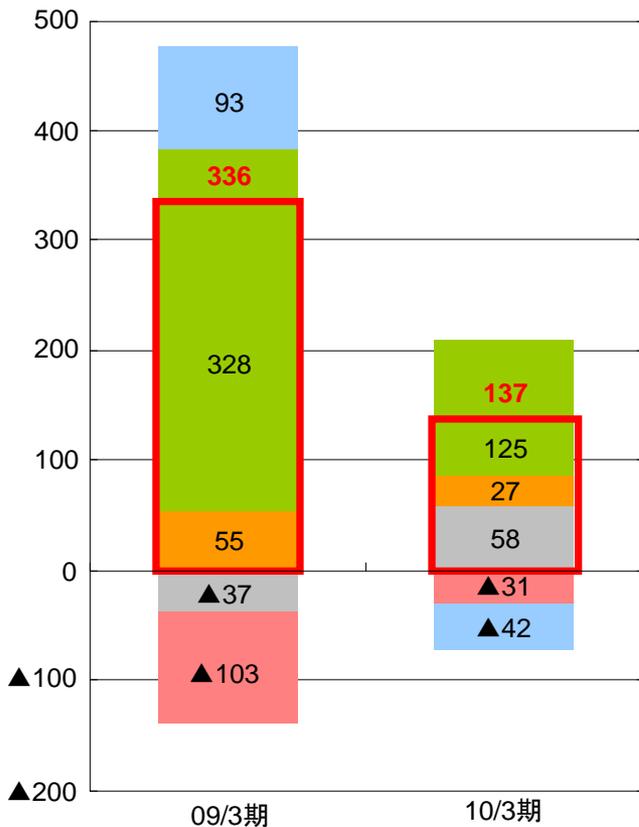
内需不振 および 主要事業地域の経済回復の遅れが大きく影響

(単位: 億円)

	09/3期 実績	10/3期 実績	前期比	10/3期 修正見通し (10/1/29公表)	達成率 (対修正見通し)	(ご参考) 10/3期 期初見通し
売上高	51,662	38,444	▲13,218 (▲26%)	39,200	98%	47,500
売上総利益	2,356	1,782	▲574 (▲24%)	1,800	99%	2,250
営業利益	520	161	▲359 (▲69%)	210	77%	560
経常利益	336	137	▲199 (▲59%)	130	105%	450
当期純利益	190	88	▲102 (▲54%)	85	104%	200
基礎的収益力	483	144	▲339 (▲70%)	123	117%	475
一株当たり配当金	5.5円	2.5円				
(ご参考)						
ROA	0.8%	0.4%	▲0.4%			
ROE	4.8%	2.6%	▲2.2%			

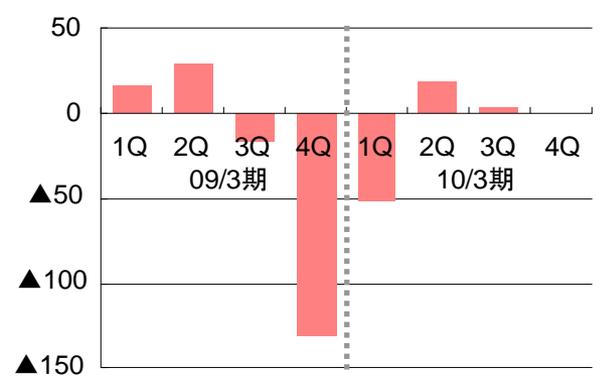
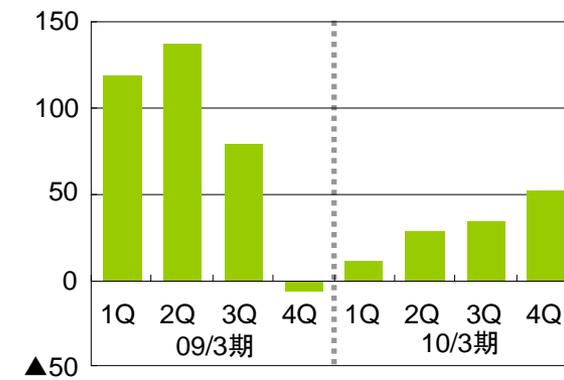
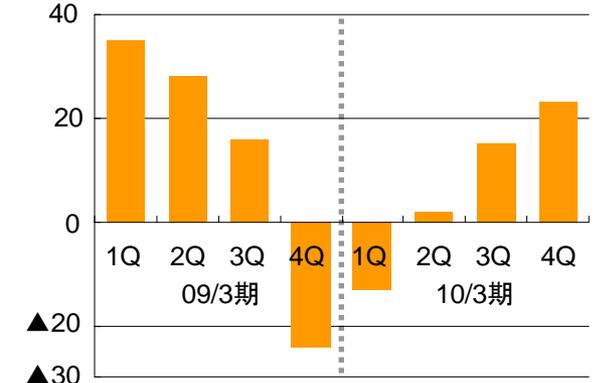
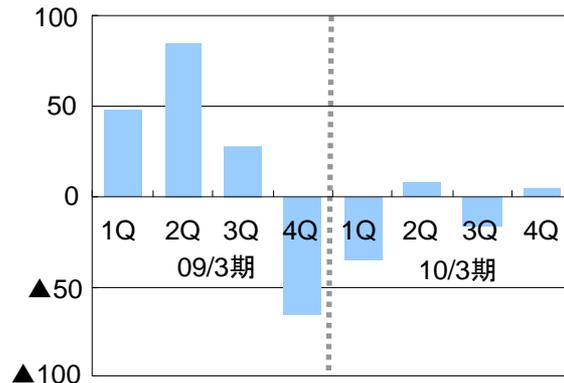
□ 部門別経常利益推移

部門別経常利益推移



部門別経常利益四半期推移

(単位: 億円)



■ 機械 ■ エネルギー・金属 ■ 化学品・機能素材 ■ 生活産業 ■ その他

□ B/Sサマリー

財務の健全性を維持

(単位:億円)

	10/3末	09/3末	増減額		10/3末	09/3末	増減額
流動資産	12,853	14,732	▲1,879	有利子負債	3,068	4,289	▲1,221
投資、 その他資産	8,756	8,398	+358	短期			
資産合計	21,609	23,130	▲1,521	長期	8,867	8,580	+287
リスクアセット (自己資本対比)	3,200 (0.9倍)	3,500 (1.1倍)	▲300 (▲0.2倍)	その他負債	5,900	6,706	▲806
流動比率(%)	153%	142%	+11%	自己資本(※) (純資産合計)	3,524 (3,774)	3,190 (3,555)	+334 (219)
長期調達比率 (%)	74%	67%	+7%	負債・純資産合計	21,609	23,130	▲1,521
				自己資本比率 (%)	16.3%	13.8%	+2.5%
				ネット有利子負債	7,378	8,653	▲1,275
				ネットDER(倍) (ネットDER(倍) 純資産合計ベース)	2.1 (2.0)	2.7 (2.4)	▲0.6 (▲0.4)

(※) 自己資本=純資産合計-少数株主持分

■ *Shine 2011* 2年目・3年目の計画

□ 事業環境認識および2年目・3年目の位置付け

外部環境

- 中国を始めとしたアジア、中南米等新興国主導による世界経済の回復
 - 資源価格、鉄鋼・化学品等の需要回復
- 新興国によるインフラ需要
- 環境関連需要の高まり
- 内需回復は引き続き緩やか

Shine 2011 初年度総括

【既存事業の基盤強化の状況】

- 在庫水準適正化の加速
 - 肥料、水産、合金鉄等在庫水準適正化には目処。一方自動車、不動産関連は更なる圧縮が必要
 - [ご参考] たな卸資産残高(除く不動産)
09/3末 2,568億円 ⇒ 10/3末 1,947億円 (ご参考: 08/9末 3,537億円)
- エネルギー・金属資源持分生産量拡大、収益を下支え
 - 石油・ガス・LNG: 10/3/31: 20,000bbl/d ⇒ 11/3/31: 28,000bbl/d
 - 石炭: 09年度 280万トン ⇒ 10年度 305万トン
 - レアメタル: 09年度 15,000千ポンド ⇒ 10年度 19,000千ポンド

【課題】

- 自動車の在庫水準適正化および事業ポートフォリオ再編
- 新興国を中心に海外事業基盤強化を加速
- 物流と事業投資のバランスが取れた事業ポートフォリオ構築を加速

Shine 2011 2年目・3年目の位置付け

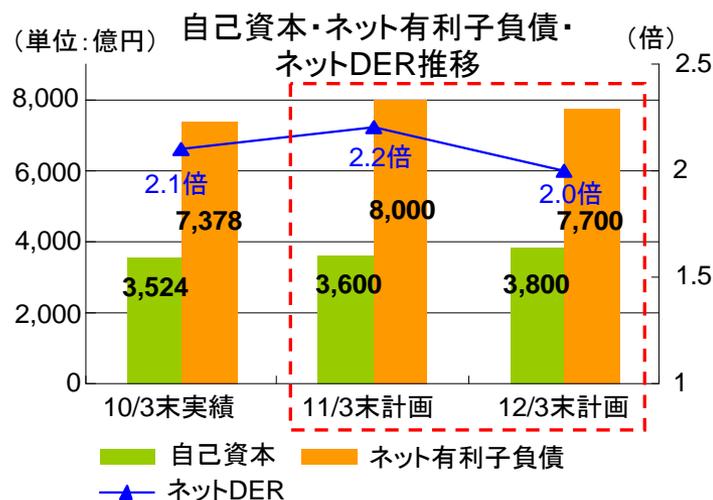
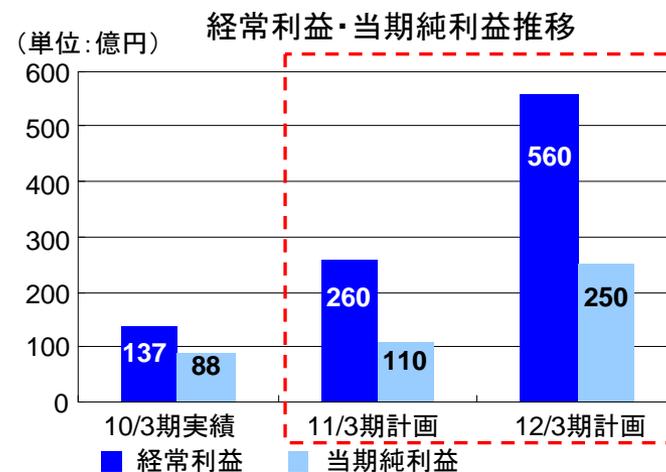
- 営業収益力の回復・向上により再び成長軌道へ
- 資産の入替えにより良質な事業・資産を積上げ、強固な収益基盤を確立

□ Shine 2011 2年目・3年目の定量計画

営業収益力の回復、良質な事業・資産の積み上げ

(単位:億円)

		10/3期実績	11/3期計画	12/3期計画
PL計画	売上総利益	1,782	2,050	2,420
	経常利益	137	260	560
	当期純利益	88	110	250
	基礎的収益力	144	335	630
BS計画	総資産	21,609	21,200	21,700
	ネット有利子負債	7,378	8,000	7,700
	自己資本(※)	3,524	3,600	3,800
財務目標	ネットDER	2.1倍	2.2倍	2.0倍
	流動比率	153%	120%以上	
	長期調達比率	74%	70%程度	
新規投融資		270	900	600

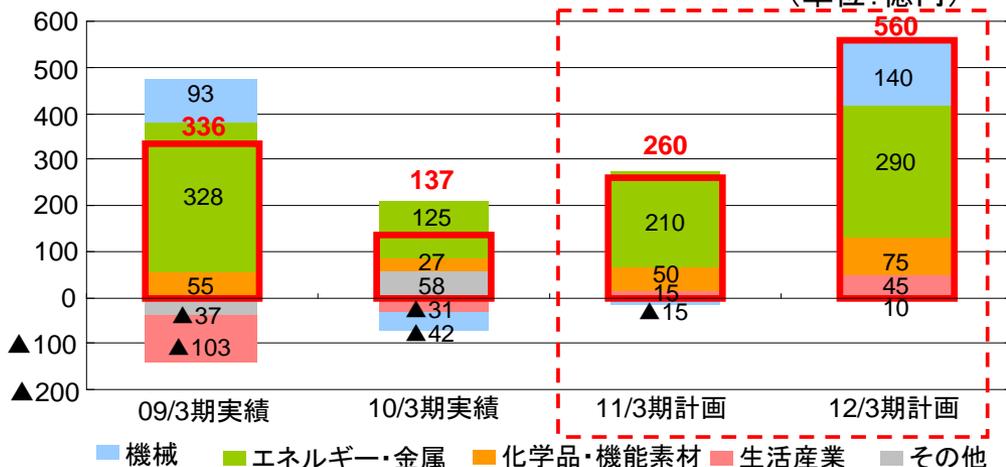


(※) 自己資本＝純資産合計－少数株主持分

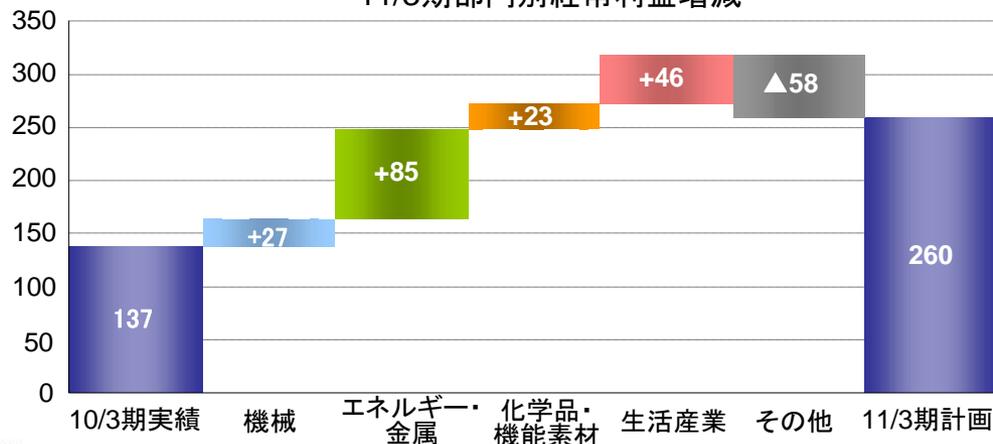
□ 部門別経常利益

緩やかながらも全営業部門で回復基調に

部門別経常利益推移 (単位:億円)



11/3期部門別経常利益増減



機械セグメント

- ロシアの自動車需要の回復により在庫水準適正化が進展
- ベネズエラ自動車事業の操業安定化に注力
- プラント案件受注の積み上げ

エネルギー・金属セグメント

- 持分生産量拡大
- 市況回復
- 鉄鋼需要の回復

化学品・機能素材セグメント

- 化学品・機能素材全般における需要回復
- メタノール市況の回復

生活産業セグメント

- 肥料事業の回復
- 水産事業の在庫水準適正化による収益性回復

□ 商品・為替・金利の市況見通し

	2009年 市況実績(年平均)	2010年 市況見通し(年平均)	2010年 市況実績(1-3月平均)
原油(Brent)(※1)	\$62.6/bbl	\$80/bbl	\$77.3/bbl
石炭(一般炭)(※2)	\$72.5/t	\$98/t	\$94.4/t
モリブデン	\$11.0/lb(ポンド)	\$15/lb	\$14.1/lb
バナジウム	\$6.0/lb(ポンド)	\$6/lb	\$6.7/lb
ニッケル	\$6.7/lb(ポンド)	\$7/lb	\$9.1/lb
為替(※3)	12月決算:¥93.7/\$ 3月決算:¥92.6/\$	¥90/\$	¥90.7/\$
金利(TIBOR)(※4)	0.53%	0.55%	

※1 原油・ガスの収益感応度 \$1/bbl変動すると、経常利益で約2億円の影響

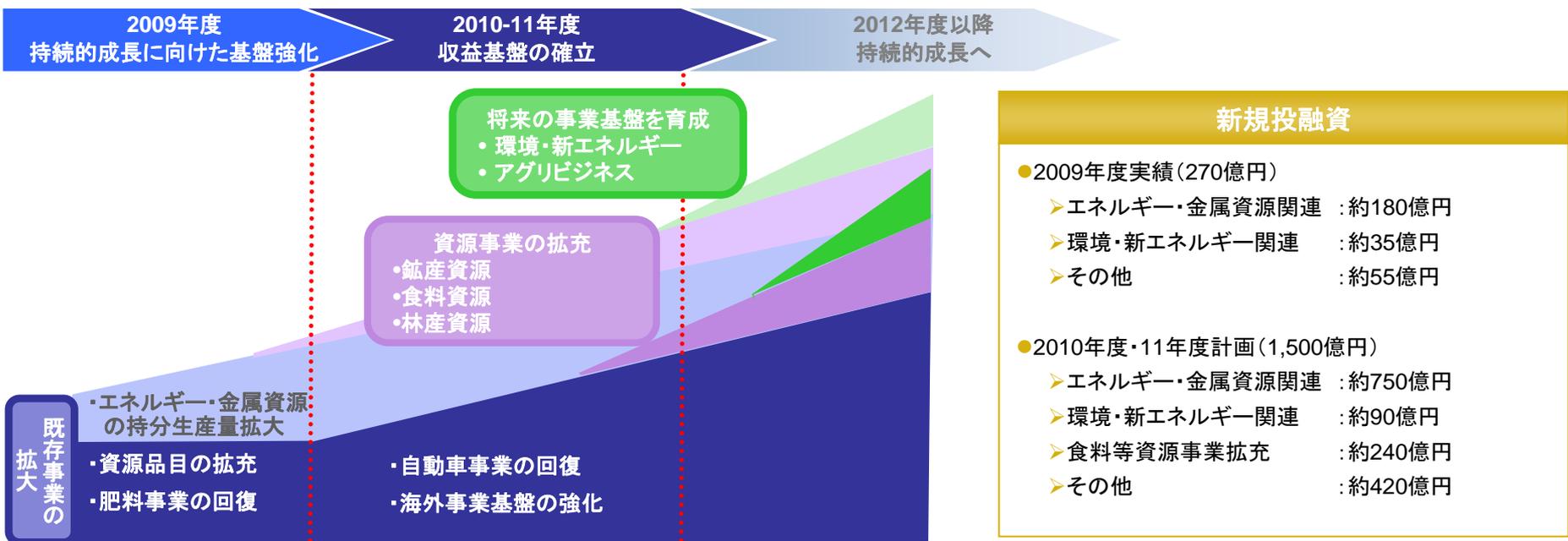
※2 石炭(一般炭)は基本的に年間契約であり、SPOT価格の影響は受けない。また上記市況実績・見通しは当社の販売価格とは異なる

※3 為替(米ドルのみ)の収益感応度 ¥1/\$変動すると、売上高で40億円程度、経常利益で1億円程度、自己資本で15億円程度の影響

※4 金利の収益感応度 1%変動すると、年間15~20億円程度の影響

□ Shine 2011の進捗

営業収益力の回復は緩やかながらも、将来に向け着実に布石



新規投融資	
●2009年度実績(270億円)	
➢エネルギー・金属資源関連	:約180億円
➢環境・新エネルギー関連	:約35億円
➢その他	:約55億円
●2010年度・11年度計画(1,500億円)	
➢エネルギー・金属資源関連	:約750億円
➢環境・新エネルギー関連	:約90億円
➢食料等資源事業拡充	:約240億円
➢その他	:約420億円

エネルギー・金属資源権益の拡充	新規事業育成	資源事業の拡充
<ul style="list-style-type: none"> ●資源品目の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ➢カナダで操業中の銅鉱山権益獲得 ➢ラオスで銅鉱床の探鉱権取得 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境・新エネルギー事業の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ➢韓国大韓テクレン出資によりアジア最大の市場において太陽光事業に参入 ➢仏アレバ社ウラン濃縮事業へ参画 ➢ブラジル・バイオエタノール事業、戦略的統合により生産能力世界最大へ ➢カナダでCCS事業のFS開始 ➢中国における排水リサイクル事業への取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ●ロシア穀物協会と戦略的パートナーシップ契約締結 ●工業塩事業拡大 ●養殖マグロ(今秋)出荷

□ 持続的成長に向けた取組み

エネルギー・金属資源

- 長期安定収益源としての資源権益
 - 既存権益の拡張・開発による持分生産量拡大
 - 新規取得による権益メニューの拡充
⇒ウラン、レアメタル、非鉄金属、鉄鉱石、石炭等

資源権益凡例

- : 石油・ガス・LNG
- : 石炭
- : レアメタル
- : 鉄鉱石・非鉄金属

資源事業の拡充

- 食料資源の確保に向けた取組み
 - ロシア等での物流インフラ確立による食料資源確保
 - ベトナム等アジアでの小麦事業展開
 - 中南米、東南アジアにおけるアグリビジネス参画への取組み

環境・新エネルギー

- 太陽光発電事業
 - 原料確保からIPPまでのバリューチェーン構築
- 原子力事業
 - 原子力バリューチェーンの構築
- バイオエタノール事業
 - 生産能力拡大
 - 日本・欧州向け取扱い拡大に向け取組み
- 水事業
 - 排水リサイクル事業への参画

中東・アフリカ

- 重点地域として人員増強
 - 資源開発、経済発展に伴うインフラ需要の取り込み
 - IPP等事業投資による中長期安定事業への取組み
 - 肥料原料確保

アジア

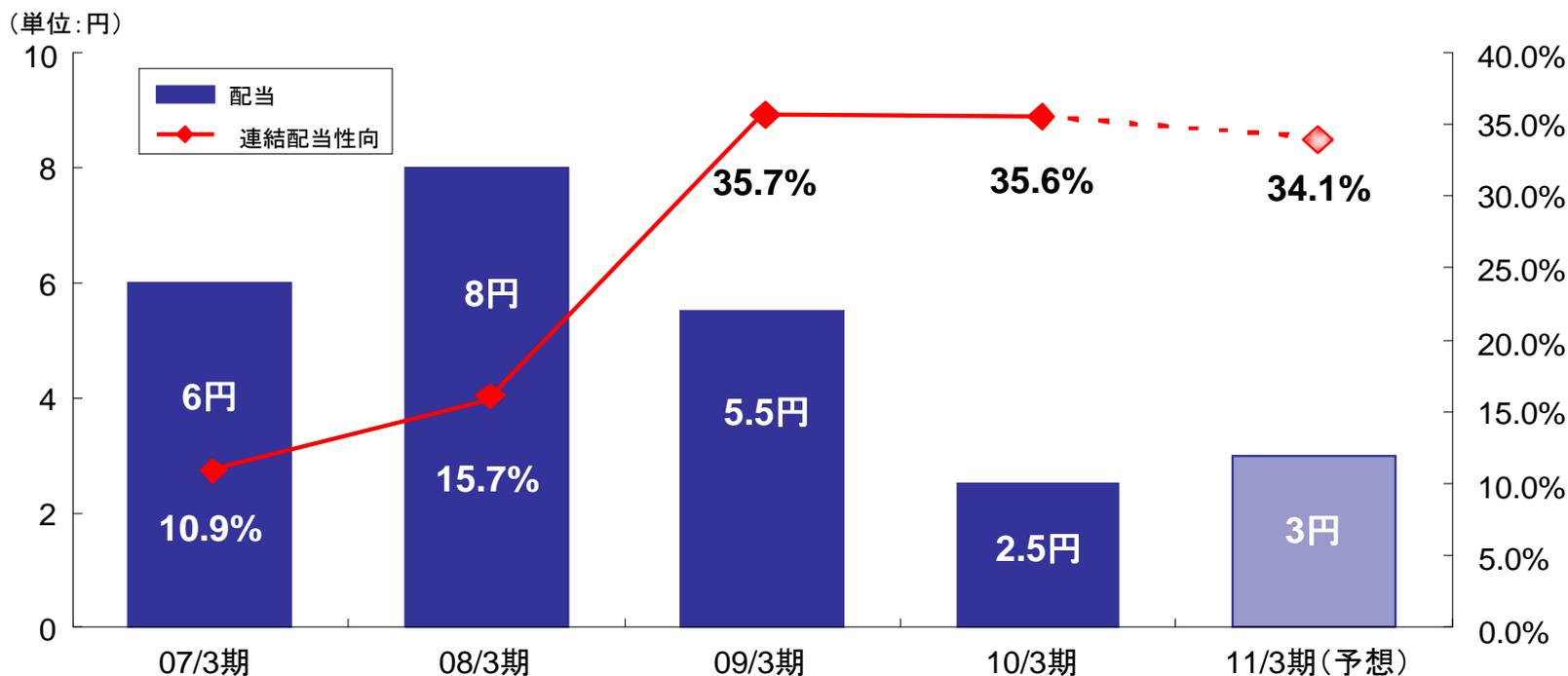
- 経済成長による産業発展、需要拡大が見込める地域での取組み強化
 - IPP等インフラ事業への取組み
 - リテール事業構築
 - ICT事業への取組み

中国

- 大消費地としての取組み
 - 石炭、鉄鉱石等資源取引の拡大
 - リテール事業構築
 - 食料取引の拡大
 - 排水リサイクル等水事業への参画

□ 利益配当金

1株当たり年間配当金・連結配当性向推移



(注) 連結配当性向につきましては期末発行済普通株式数にて算定しております

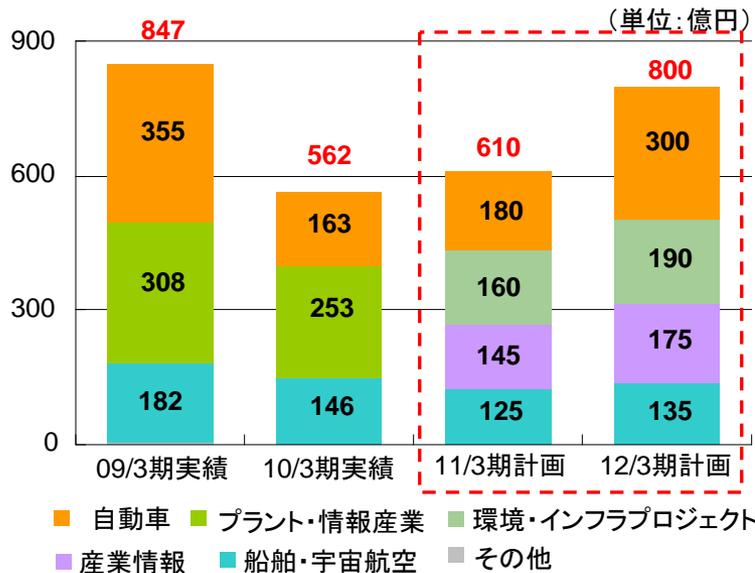
配当に関する基本方針

安定的かつ継続的に配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって企業競争力と株主価値を向上させることを経営の重要課題のひとつと位置付け

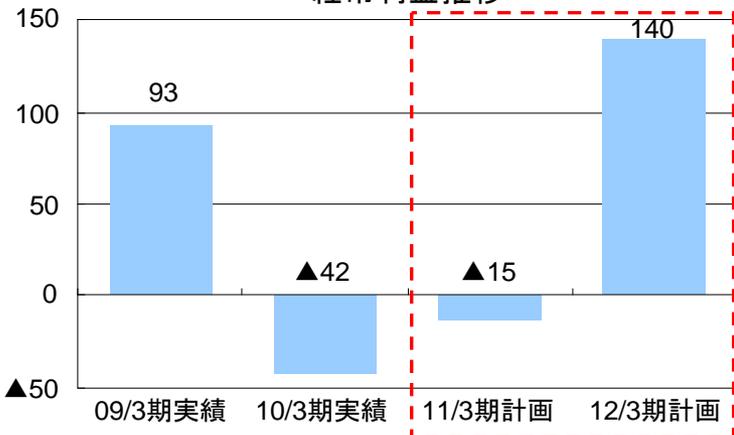
■ 【ご参考資料】 事業セグメント別見通し

□ 機械セグメント

本部別売上総利益推移



経常利益推移



Shine2011 期間中の取組み

【自動車事業】

- ロシア事業の在庫水準適正化とベネズエラ組立事業の安定操業化による事業再生
- エクスポージャー管理の継続
- ディーラー等川下事業への参画等による事業ポートフォリオの再編

【インフラ・プラント事業】

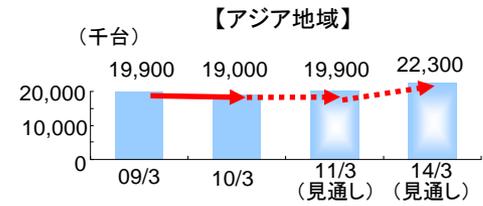
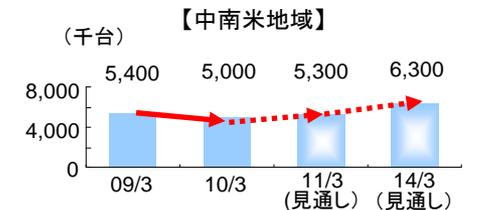
- プラント受注拡大
- 中長期的に収益貢献が期待できるIPP投資への取組み
- 新興国におけるインフラ需要の取り込み

【産業情報事業】

- 日商エレクトロニクスを中核とし、ITサービス事業の拡大
- アジア等海外市場での取組み強化

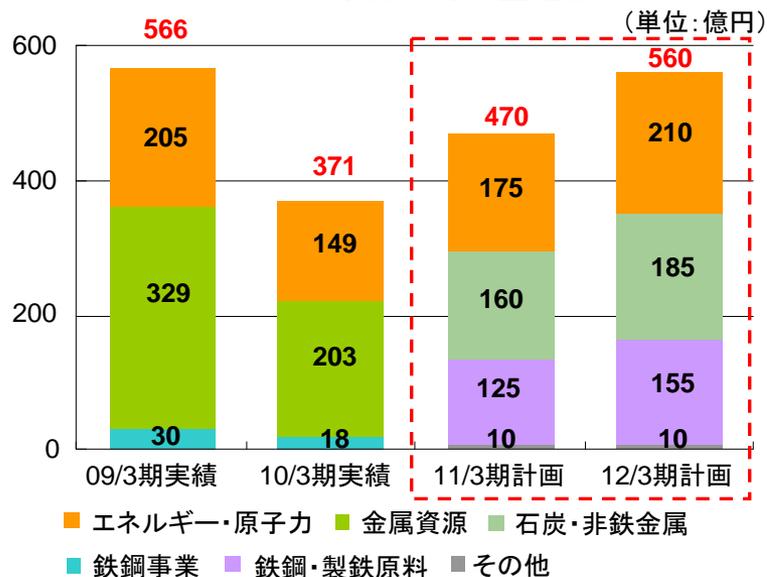
主な市場環境

- 新興国でのモータリゼーション、社会インフラ整備進行により市場は回復へ
- 各地域における自動車販売台数推移・予測

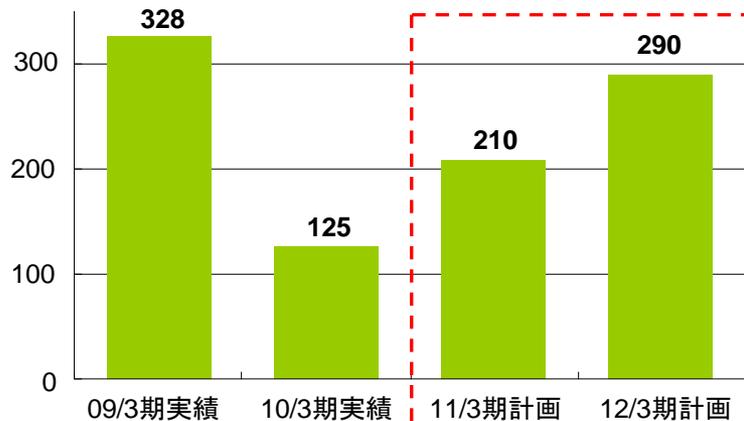


□ エネルギー・金属セグメント

本部別売上総利益推移

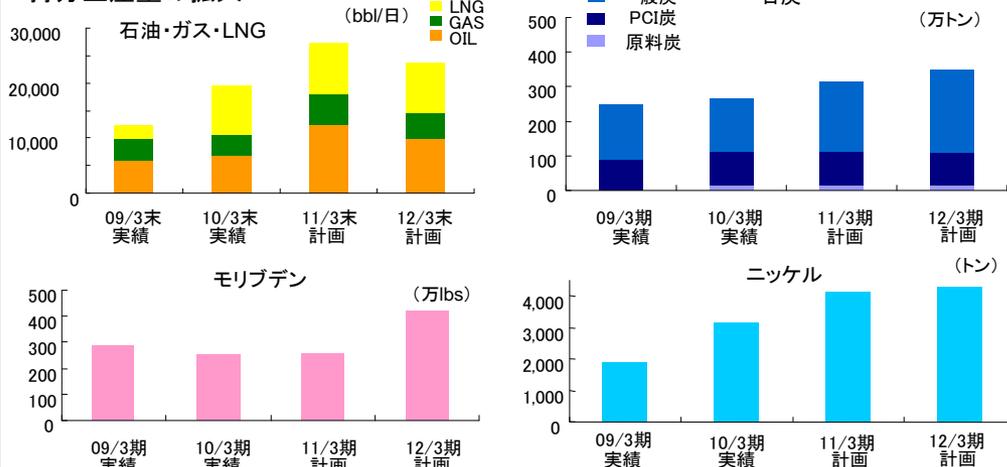


経常利益推移



Shine2011 期間中の取組み

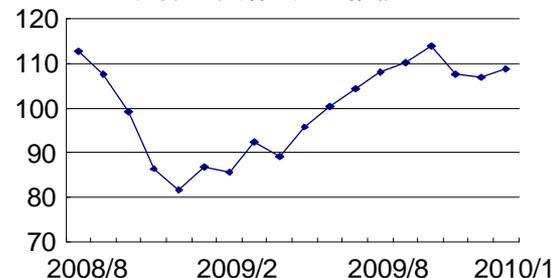
● 持分生産量の拡大



- 資源権益メニューの拡充および既存権益の拡張による持分生産量拡大
- ウラン上流権益投資を含めた原子力関連事業投資の推進
- 太陽光関連ビジネスにおける、上流から下流までのバリューチェーン構築

主な市場環境

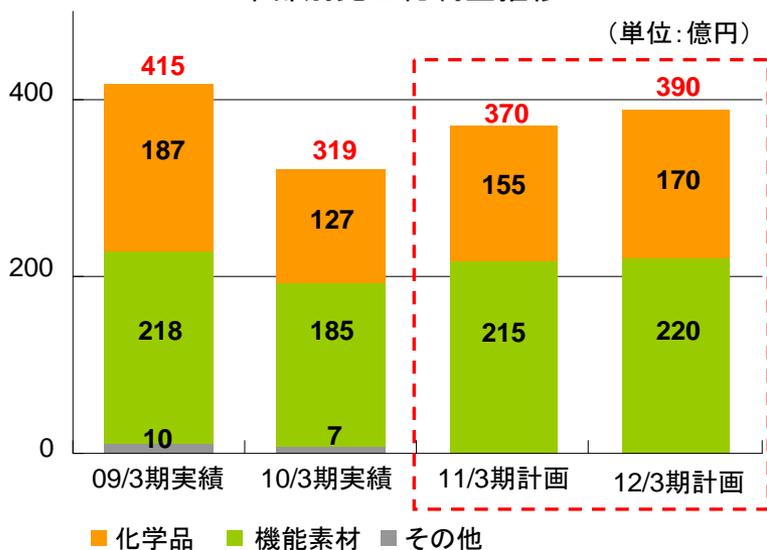
(百万トン) 世界の粗鋼生産量推移



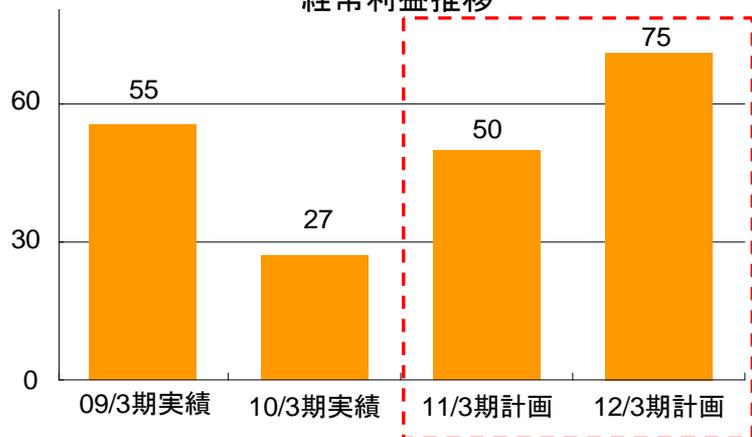
- 世界の粗鋼生産量はリーマンショック前の97%程度まで回復
- 中国を始めとした新興国でのインフラ需要により、今後も増加していく見通し
- それに伴い石炭、合金鉄需要も堅調な見通し

□ 化学品・機能素材セグメント

本部別売上総利益推移



経常利益推移



Shine2011 期間中の取組み

【化学品事業】

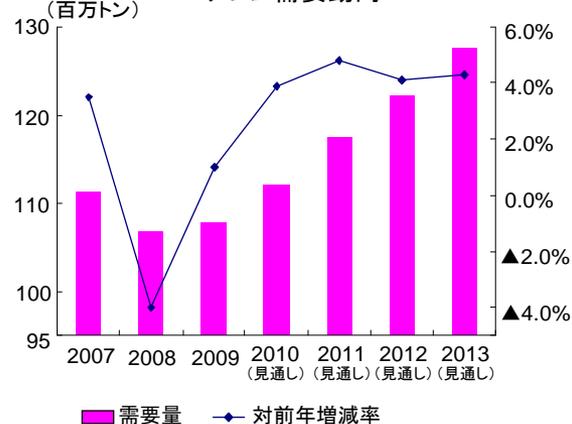
- 戦略商品における物流バリューチェーン強化
 - 戦略商品: 工業塩・レアアース・リチウム・メタノール・メトン樹脂
 - 供給ソースを押さえる取組み
- 中国・アジア等における海外物流ビジネスの強化

【機能素材事業】

- 集中分野における物流取引のチェーン展開
 - 集中分野: エレクトロニクス、太陽光発電関連、高機能モノマー

主な市場環境

エチレン需要動向



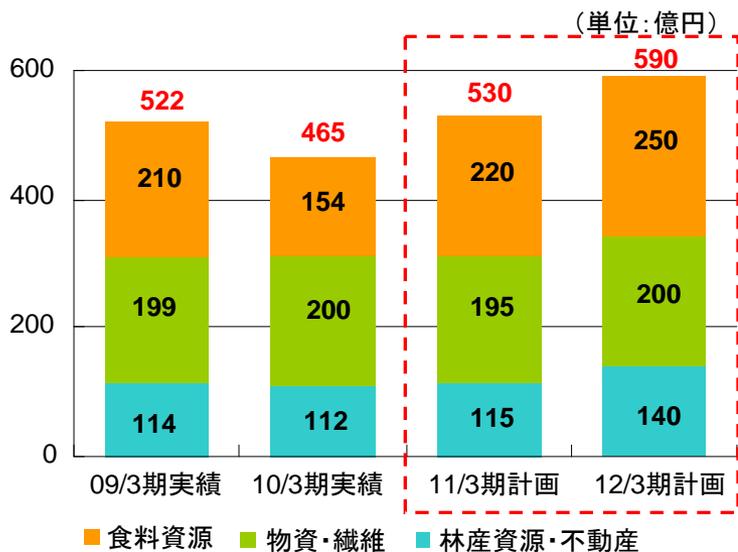
- 2008年をボトムに化学品需要は回復傾向
- 新興国を中心とした経済成長により、今後も需要は増加する見込み
- メタノール市況の回復は緩やか

メタノール市況

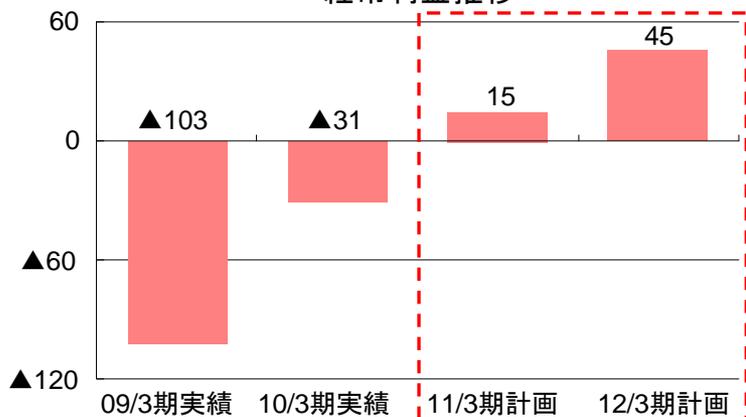


生活産業セグメント

本部別売上総利益推移



経常利益推移



Shine2011 期間中の取組み

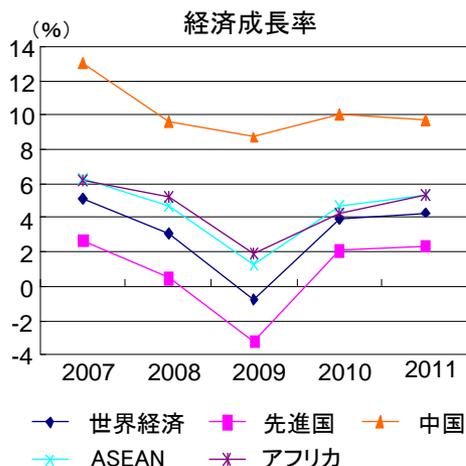
【食料事業】

- 海外における事業展開の加速
 - ▶ ベトナムでの食品コンビナート事業
 - ▶ 肥料原料確保の取組み・事業地域拡大
- 小麦等食料資源確保への取組み
- アグリビジネスの取組み

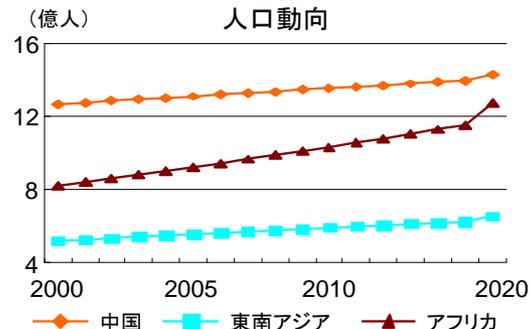
【リテール事業】

- 消費拡大の見込めるベトナム、中国等アジアでの事業展開

主な市場環境



- 中国、ASEAN、アフリカ等新興国経済は2009年をボトムに回復
- 人口増加とともに食料需要増加の見込み



■ 【補足資料】 決算実績サマリー

□ P/L推移

(単位:億円)

	07/3期 実績	08/3期 実績	09/3期 実績	10/3期 実績	11/3期 計画	12/3期 計画
売上高	52,182	57,710	51,662	38,444	42,100	48,200
売上総利益	2,545	2,777	2,356	1,782	2,050	2,420
営業利益	779	924	520	161	400	690
経常利益	895	1,015	336	137	260	560
当期純利益	588	627	190	88	110	250
基礎的収益力	898	1,107	483	144	335	630
(ご参考)						
ROA	2.3%	2.4%	0.8%	0.4%	0.5%	1.2%
ROE	12.8%	13.0%	4.8%	2.6%	3.1%	6.8%

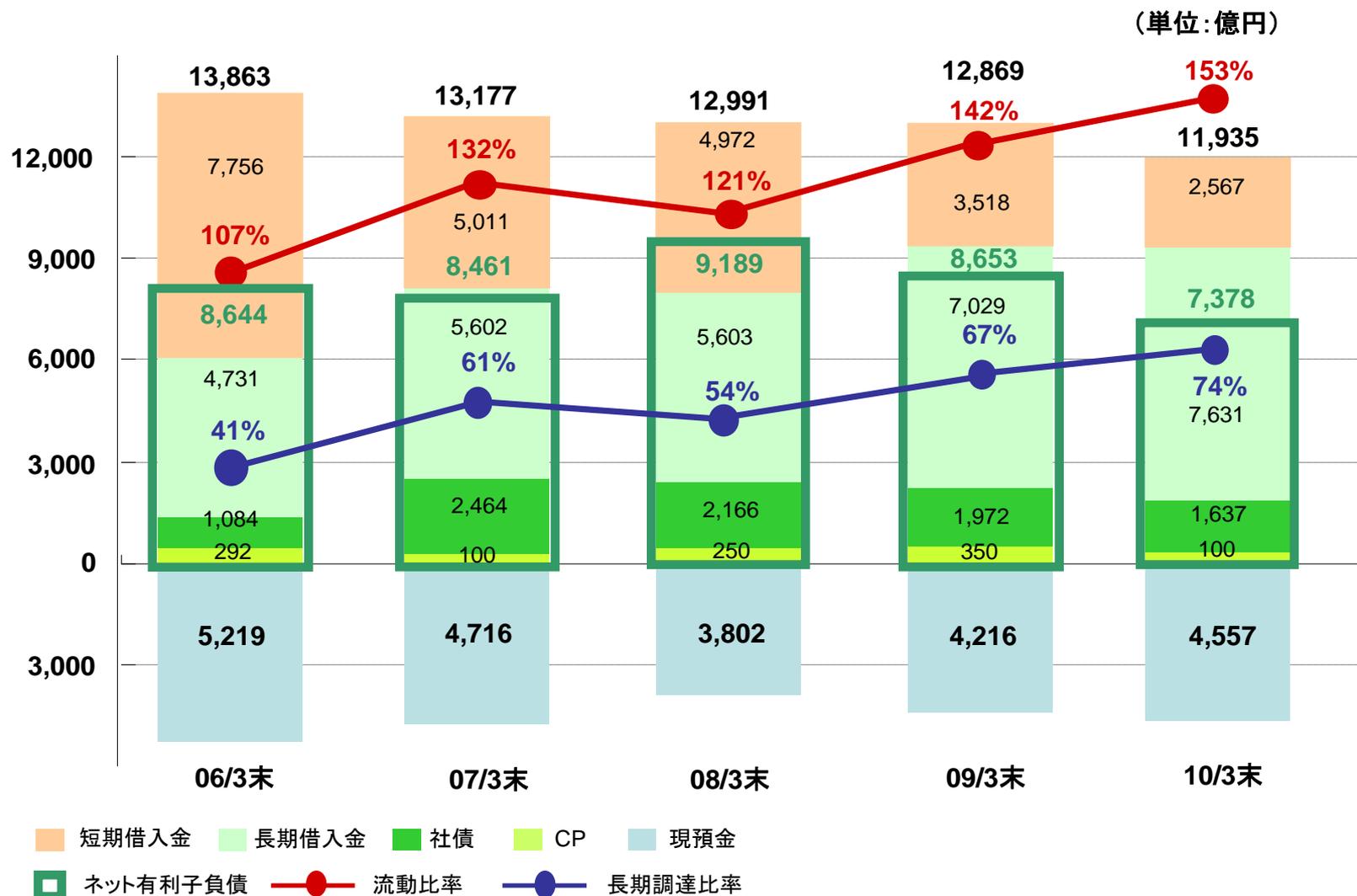
□ B/S推移

(単位:億円)

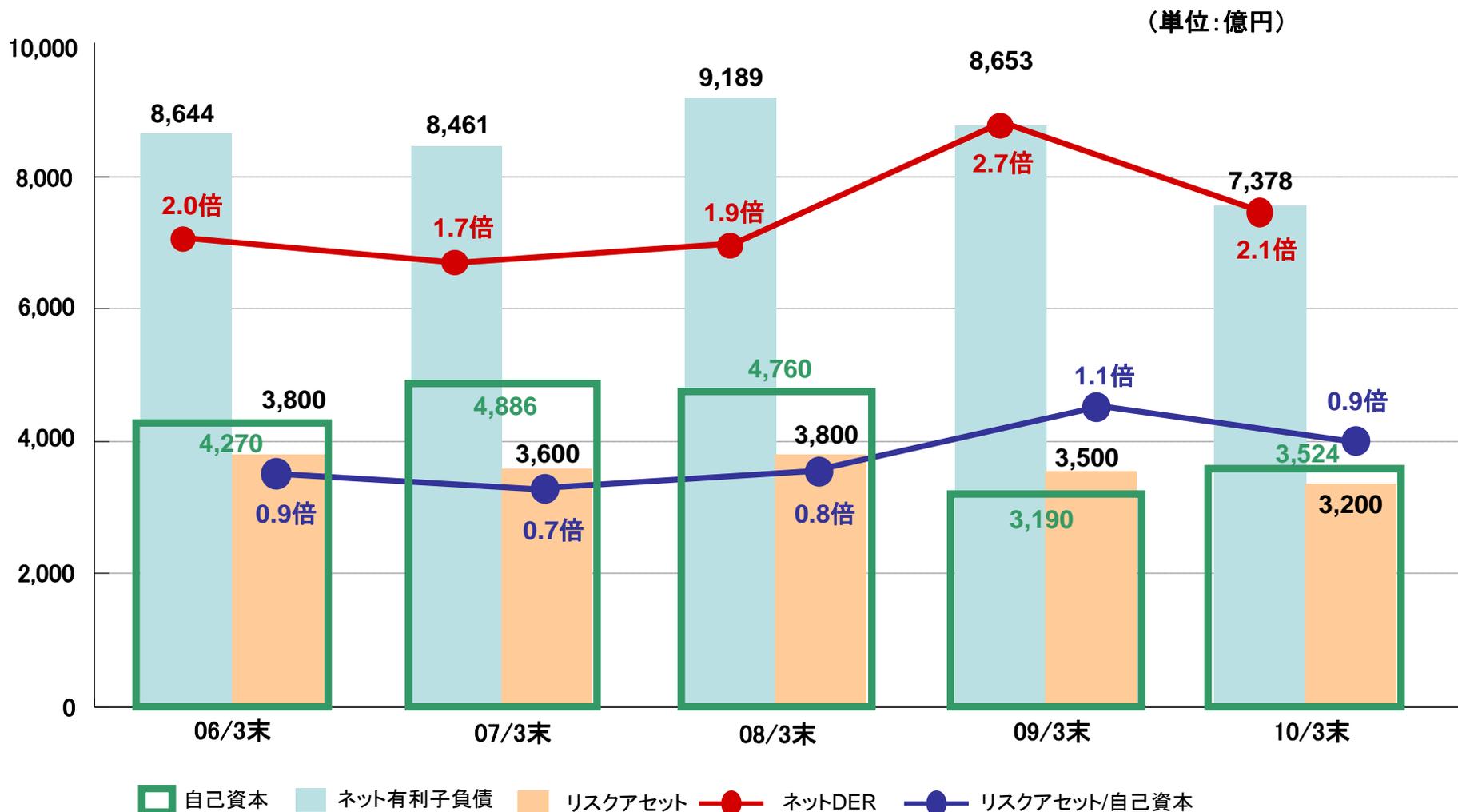
	07/3末	08/3末	09/3末	10/3末		07/3末	08/3末	09/3末	10/3末	
流動資産	16,151	16,760	14,732	12,853	有利子負債	短期	5,120	5,973	4,289	3,068
						長期	8,057	7,018	8,580	8,867
投資、 その他資産	10,044	9,934	8,398	8,756	その他負債		7,702	8,500	6,706	5,900
					自己資本(※) (純資産合計)		4,886 (5,316)	4,760 (5,203)	3,190 (3,555)	3,524 (3,774)
資産合計	26,195	26,694	23,130	21,609	負債・純資産合計		26,195	26,694	23,130	21,609
リスクアセット (自己資本対比)	3,600 (0.7倍)	3,800 (0.8倍)	3,500 (1.1倍)	3,200 (0.9倍)	自己資本比率 (%)		18.7%	17.8%	13.8%	16.3%
流動比率(%)	132%	121%	142%	153%	ネット有利子負債		8,461	9,189	8,653	7,378
長期調達比率 (%)	61%	54%	67%	74%	ネットDER(倍) (ネットDER(倍) 純資産合計ベース)		1.7 (1.6)	1.9 (1.8)	2.7 (2.4)	2.1 (2.0)

(※) 自己資本=純資産合計-少数株主持分

□ 有利子負債推移



□ ネット有利子負債/リスクアセット推移





sojitz

New way, New value

将来の見通しに関する注意事項

資料に記載されている内容につきましては種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。